

# SWR：世界設定

Version 0.1(May 29, 2024)

ここで紹介する特技はソード・ワールド RPG をオマージュしたルールを D&D に取り入れるサプリメント、ソード・ワールド R (仮) 用の世界設定です。

ソード・ワールド R (仮) ではオラン近辺にクローズアップした世界設定を掲載する予定です。

これらはまだ開発中なのでご感想をいただければ幸いです。メールは paladin@nekohaus.net、Twitter は @nekohaus です。

## オラン案内

アレクラスト大陸東南に位置するオランの国は、建国からおよそ 200 年の歴史を持ちます。大陸最大の都市であるオランの都には 10 万からの人々が暮らし、王城や神々の神殿と共に“賢者の学院”の塔がそびえる“賢者の国”の異名に違わぬ文化を誇っています。

その華々しい都の北には古代王国時代の空中都市が墜落した“墜ちた都市”レックスがその巨大な姿を横たえています。オランに新たな時代の魔術師ギルドが誕生したのも、ここで得られる遺物や知識と無関係ではないでしょう。

ゆえに、この国は“賢者と冒険者の国”とも呼ばれます。

### “賢者と冒険者の都” オラン

その国名と名を同じくするオランの都はアレクラスト大陸最大の都市である上に、街路は石畳で舗装され、上下水道も整備されている大陸有数の文化的都市です。

街を二分するハザード川から東は庶民の住まう港湾区域と彼らに信者が多いチャ・ザ神殿、そしてスラム街などがあり、西岸には城壁で守られた王城、エイトサークル城を、至高神ファリス、戦神マイリー、大地母神マーファ、知識神ラーダの神殿が囲み、そこから少し離れた場所には三本の塔がそびえる三角塔、“賢者の学院”があります。

### “古代王国への扉” 亭

オランの街の東端にあり、遺跡探検や揉め事を請け負う冒険者たちがたむろしている酒場兼宿屋です。昼間でも酒を飲み賭博や与太話に興じる冒険者たちがぐだを巻き、彼らの腕っ節を頼りにする依頼人も訪れるので、喧噪の途切れることはありません。

依頼は暇そうにしている冒険者に店主のラウダから振られることもあります。店の壁に貼られた依頼書で良さそうな仕事を探す冒険者もいます。

この街にはこのような“冒険者の店”がいくつもありますが、ここは街に入っただけという場所のよさからか、オランでも一番だと評判です。

### “うるわしの我が家” 亭

ハザード川西岸、三角塔のすぐそばにある冒険者の店が“うるわしの我が家”亭です。この店に出入りする冒険者はヒューマン以外の種族が多く、他の店に馴染めなかった者もいます。

### 常闇通り (盗賊ギルド)

“古代王国への扉”亭からそう遠くもない、街の北東に広がるスラム街です。この中に街の裏社会を仕切る盗賊ギルドがあると噂されています。

盗賊ギルドは盗みや殺しなど犯罪の他にも、乞食から城の使用人までが話すさまざまな噂話にも通じています。キャラクターたちが頼ることも多いでしょう。もちろん、それなりの信用と支払いは必要になりますが。

なお、盗賊のキャラクターがギルドに入り、その街で“仕事”をする許可を得るには 1000 ガメルの上納金が必要です。

### 奇跡の店

中原の国ロマールから流れてきた禿頭の店主が経営している道具屋です。店の中にはところ狭しと古代遺跡からの発掘品や魔法の物品が並べられており、次の持ち主が現われるのを待っています。

この店主には新米冒険者の土産話を聞き、彼らが持って帰ってきた取に足りないガラクタを買い取る奇癖があります。キャラクターたちも話をしに行く機会があるかもしれません。

### 港

ハザード川の河口付近は港として整備されており、街の中でも水路を使った水運が盛んです。オランに出入りするのには沿岸交易の船が多く、はるか南の“呪われた島”やアザーン諸島に向かう船は西のエレミアから出発しています。

## 三角塔

“賢者の学院”として有名な魔術師ギルドの建物です。アレクラスト大陸の魔術師ギルドはほぼすべてがマナ・ライによって再構成された魔法体系を学んでいるため、大陸中にある魔術師ギルドの総本部としての役割もあります。

魔術と直接関係しない知識を蒐集する知識の塔、マナ・ライやバレンをはじめとする高位の導師や賢者の個人的な研究室がある真理の塔、その他の術者が所属する研究室や禁断の魔法具を保管している部屋のある魔術の塔からなる3本の塔が、この施設が三角塔と呼ばれているゆえんです。

冒険者との縁も深く、古代王国の遺跡で手に入れた財宝の鑑定や、学術的に価値のある遺物の買い取りなども行なっています。

## エイトサークル城

王の居城です。堅固な城壁に守られていますが、城を中心として放射状に道路が走っており、開放感のある雰囲気になっています。

現国王は“賢人王”カイアルタード七世で、国王でありながら自らもマナ・ライの高弟として政の合間に学問や研究を行なっています。

## “冒険者の街”パダ

オランから“曙光と落日の街道”を北東に徒歩で3日行った、“墜ちた都市”レックスを望む街です。もともとは農村でしたが、“墜ちた都市”探索の冒険者が出入りし始めてから、村の人々は彼らを相手にした商売を始め、冒険者の街が生まれました。

栄えるにしたがって街はオランに倣って道が石畳で整えられ、自衛の為の石壁も作られました。しかし、それがなされてからも人口は膨れ上がり、街に入りきれなくなった人々は壁の外にてんで勝手に家を作り、スラムが形成されています。

人口は5000人ほどで、その中に常時100名以上の冒険者がいます。

## 魔術師ギルド出張所

遺跡調査の最前線であるパダの街にはオランの魔術師ギルドの出張所が造られており、持ち込まれる遺物の鑑定などを行なっています。

## 盗賊ギルド

パダの盗賊ギルドには複数の有力な幹部がおり、彼らの派閥がしのぎを削っています。オランのギルドとも関係があるので、オランで上納金を納めた盗賊はパダでも活動を許されることが多いです。

## “遺跡の番人”亭

街を囲む壁の外、スラムにある“初級者”向けの冒険者の店です。眼鏡をかけたサイモという男が店主で、謎めいたシーカンスの地下迷宮という遺跡の情報も商っています。

## “墜ちた都市”レックス

オランの都の北東に広がる、一周するのに1週間はかかろうかという巨大な遺跡群が、“墜ちた都市”レックスです。もともとは古代王国時代に造られた空中都市でしたが、野放図な拡張政策で膨れ上がった都市を支える地上の環状列石を蛮族に攻められ、あえなく崩壊してしまいました。

墜落と蛮族との戦いで古代王国の民は死に絶えています。古代王国時代の魔法生物や召喚された魔神といった古くからの脅威に加え、ここをめぐらと定めた魔獣や妖魔、そして死したことを知らずに動いているアンデッドなど、さまざまな魔物の巣窟になっています。

この広大な遺跡群をやみくもに探索するのは、ただ危険なだけです。パダの冒険者の店は古文書の解読をして遺跡にあたりをつけた賢者や、様々な事情から情報を売りにきた冒険者と、遺跡の探索に行きたい冒険者の間を取り持っています。彼らに仲介料を払い、“生きた”遺跡の情報を得るのがうまくやっていくコツです。

## 権利表記

This work includes material taken from the System Reference Document 5.1 (“SRD 5.1”) by Wizards of the Coast LLC and available at <https://dnd.wizards.com/resources/systems-reference-document>. The SRD 5.1 is licensed under the Creative Commons Attribution 4.0 International License available at <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode>.

本作は、「著：水野良／グループSNE」が権利を有する『ソード・ワールドRPG』の二次創作作品です。

© 水野良／グループSNE「ソード・ワールドRPG」